

# 日本語教育における 筆順指導の現状と課題

秋 山 英 治

## 1. は じ め に

日本語を学ぶ日本語学習者は年々増加している。国際交流基金（2011）によれば、海外で日本語を学ぶ日本語学習者数は、2009年現在で365万人を超えている。前回調査の2006年と比較すると、約6万7千人増加しており、増加率<sup>1)</sup>としては22.5%である。一方、日本語教師数については、2006年から2009年にかけて、約5,500人の増加で、増加率としては12.4%であり、日本語学習者数の増加に日本語教師数が追いついていない状況にある<sup>2)</sup>。

日本語学習者の増加によって、国籍や使用言語、年齢・学習動機・学習目的等が多様化している。それゆえ、日本語教育において効率的な学習法の開発が急務の課題となっている。ここで大きな問題となるのが、「漢字」をどう教えていくかである。

漢字学習は、普段漢字を見慣れている漢字文化圏<sup>3)</sup>の日本語学習者にとっても、自国の表記との違いに戸惑う学習者もいるなど、決して容易なものではない。ましてや非漢字文化圏の日本語学習者にとっては初めて見る文字であり、習得が非常に難しい。しかも、一口に「漢字」と言っても、字形・字体・画数・部首・読み・筆順・成り立ちなど、実にさまざまな面がある。そこで、秋山英治（2012）では、「筆順」を取り上げ、国語教育・日本語教育における筆順指導・筆順学習の実態と意識に関するアンケート調査を行い、日本語学習

者の状況について、「漢字文化圏」「非漢字文化圏」という観点から分析を行った。今回、さらに「学習歴」という観点を加えて分析を行った。本稿では、その分析結果について述べることとする。

## 2. 調査方法及び調査内容

アンケート調査は、大学を中心に、短期大学、専門学校、非営利国際交流ボランティア団体など11機関の協力を仰ぎ、合計234人の日本語学習者の回答を得たが、本稿では、「学習歴」が不明な3人を除く231人のデータを分析した。

調査内容は、次の通りである。

- ① 出身（国・地域名）
- ② 使用言語（母語）
- ③ 日本語学習歴（学習期間）
- ④ 性別
- ⑤ 漢字学習の好き嫌い
- ⑥ 筆順指導を受けたことがあるか（今受けているか）
  - (1) 「受けたことがある（今受けている）」と回答した場合、
    - ・ なぜ筆順指導を受ける必要があるのか
    - ・ 筆順指導を受けてどのような変化があったか
  - (2) 「受けたことがない」と回答した場合、筆順指導を受けたかったか
- ⑦ 筆順指導は必要か
  - (1) 「必要」と回答した場合、なぜ筆順指導が必要なのか
  - (2) 「必要ない」と回答した場合、なぜ必要ないのか
- ⑧ 漢字を書く時に注意していることはなにか
- ⑨ 自分の筆順と違う人を見てどう感じるか
- ⑩ 漢字を学習する上で問題があるか
  - (1) 「ある」と回答した場合、どのような問題があるか

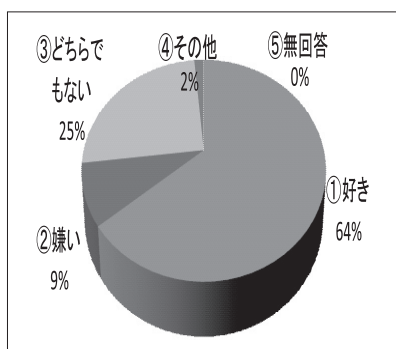
アンケート調査票は、原則として日本語で表記したものを用了が、一部日本語では回答が困難な学習者もいたため、英語による調査票も用了。

秋山英治（2012）でも述べたように、回答者の53%が中国出身の日本語学習者であり、「漢字文化圏」「非漢字文化圏」の学習者数は均等ではないが、文化圏別の傾向を知ることができると考え、それぞれの文化圏について、「学習歴」を「2年未満」「2年以上」の2群に分けて分析を行った<sup>4)</sup>。以下、文化圏別の特徴を述べた秋山英治（2012）をもとに、各文化圏における学習歴別の分析結果をみていく<sup>5)</sup>。

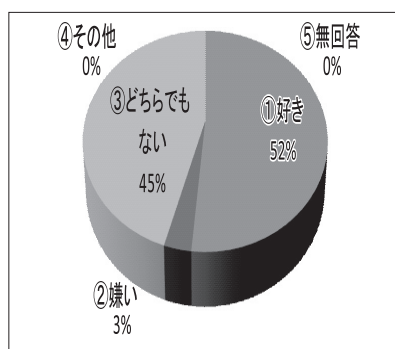
### 3. 調査結果及び分析

#### 3.1 漢字学習に対する好き嫌いについて

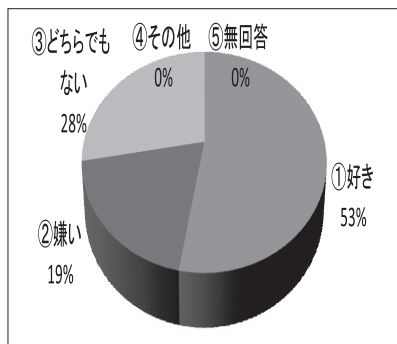
漢字学習が好きか嫌いかについて、3つの選択肢「①好き」「②嫌い」「③どちらでもない」を設け、尋ねた。その結果を、漢字文化圏・非漢字文化圏それぞれを学習歴2年未満と2年以上に分けて示す（以下、「漢字〈2年未満〉」「漢字〈2年以上〉」「非漢字〈2年未満〉」「非漢字〈2年以上〉」と表す）と、【図①1】【図①2】【図①3】【図①4】のようになる。



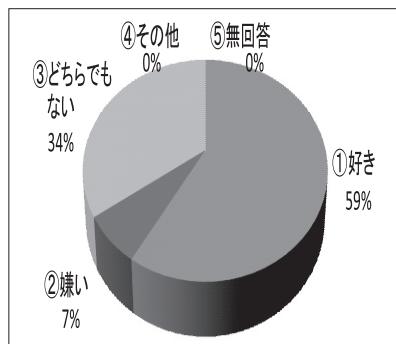
【図①1】 漢字〈2年未満〉



【図①2】 漢字〈2年以上〉



【図①3】非漢字〈2年未満〉



【図①4】非漢字〈2年以上〉

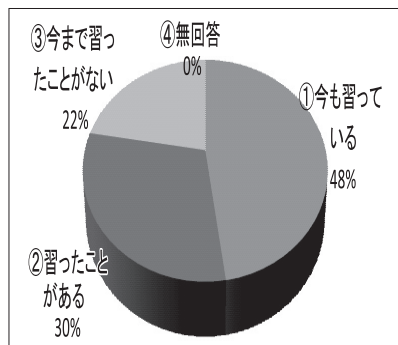
【図①1】【図①2】より、漢字文化圏についてみると、漢字〈2年未満〉は、「①好き」の比率が漢字〈2年以上〉より12%高く、漢字学習に対して肯定的な意識を有していることがわかる。一方、比率としてはそれほど大きな差とは言えないものの、漢字〈2年未満〉の「②嫌い」の比率が、漢字〈2年以上〉よりも高い。学習歴が短い学習者は、漢字学習に対して肯定的な意識を有する学習者が多いものの、その反面漢字学習に対して否定的な意識を有する学習者もいることがわかる。

【図①3】【図①4】より、非漢字文化圏についてみると、「①好き」の比率は、非漢字〈2年未満〉が53%、非漢字〈2年以上〉が59%とそれほど大きな差がない。しかし、「②嫌い」の比率は、非漢字〈2年未満〉が19%、非漢字〈2年以上〉が7%と、非漢字〈2年未満〉の方が12%高い。学習歴の短い学習者の方が、漢字学習に対して否定的な意識を有する学習者が多いということについては、漢字文化圏と同様である。日本語学習の初期段階において、漢字学習が学習者にとって大きな負担となっている（そのため、漢字学習を否定的に捉えてしまう）ことが示唆される。

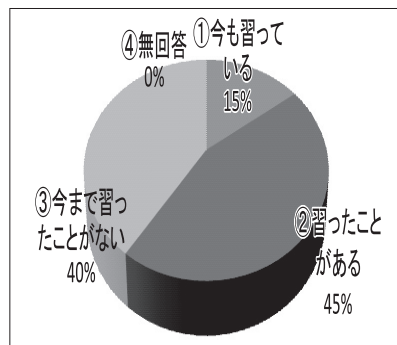
### 3.2 筆順指導の有無について

筆順指導を受けているか、その有無について、3つの選択肢「①今も習って

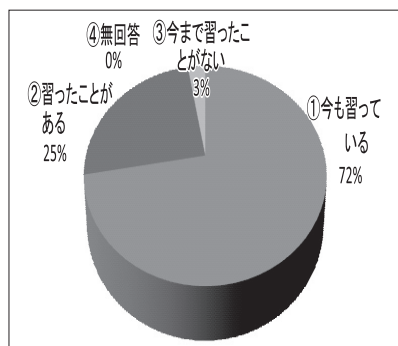
いる」「②今は習っていないが習ったことがある」（図では「習ったことがある」）「③今まで習ったことがない」を設け、尋ねた。その結果を、漢字文化圏・非漢字文化圏それぞれを学習歴2年未満と2年以上に分けて示すと、【図②1】【図②2】【図②3】【図②4】のようになる。



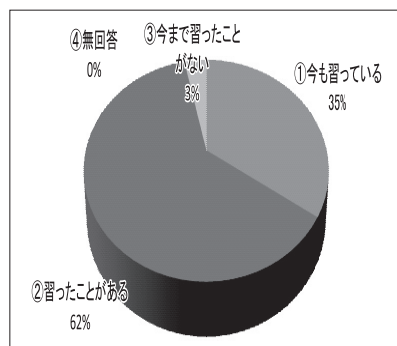
【図②1】漢字 <2年未満



【図②2】漢字 <2年以上



【図②3】非漢字 <2年未満



【図②4】非漢字 <2年以上

【図②1】【図②2】より、漢字文化圏についてみると、学習歴によって大きな差がみられる。漢字 <2年未満)では、48%が「①今も習っている」と約半数が現在も筆順指導を受けていると回答しているのに対して、漢字 <2年以上

上)では、45%が「②今は習っていないが習ったことがある」と約半数がかつて筆順指導を受けていたと回答している。これらの結果から、筆順指導は、日本語学習の初期段階で行われるものであることがわかる。同様の結果は、次に示す非漢字文化圏でもみられる。

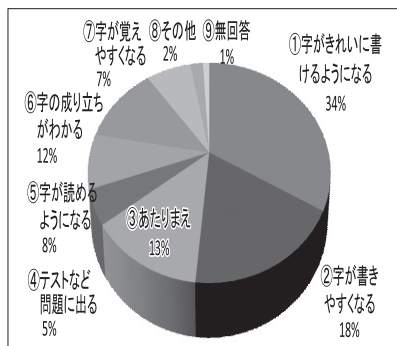
【図②3】【図②4】より、非漢字文化圏についてみると、漢字〈2年未満〉では、72%が「①今も習っている」と7割以上が現在も筆順指導を受けていると回答しているのに対して、漢字〈2年以上〉では、62%が「②今は習っていないが習ったことがある」と6割以上がかつて筆順指導を受けていたと回答している。非漢字文化圏では、漢字文化圏以上に学習歴による差がみられている。これは、秋山英治(2012)でも述べたように、漢字文化圏の学習者は、日本語を学習する以前から漢字(筆順)を知っているのに対して、非漢字文化圏の学習者は、漢字という文字に初めて触れることからどのような順番でどのように書けばよいのかわからないので筆順指導が行われるためと考えられる。

津村幸恵・外田久美・宮澤正明・杉浦妙子・河合仁・塚本宏(1999)によれば、国語教育において、筆順指導は、特に漢字学習の初期段階である小学校低学年で行われ、高学年になればあまり行われなくなることが述べられているが、日本語教育においても、国語教育と同様の傾向にあることがわかる。

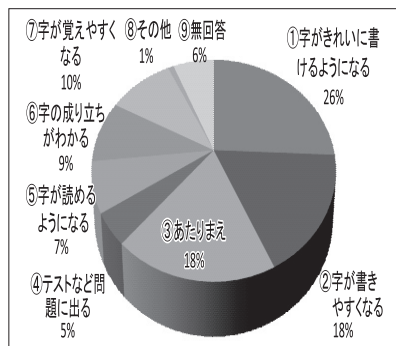
### 3.2.1 筆順指導を受ける理由について

3.2の質問で、筆順を「①今も習っている」「②今は習っていないが習ったことがある」と回答した日本語学習者に、筆順を習っている(習った)理由について、8つの選択肢「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」「③筆順を習うのはあたりまえだから」(図では「あたりまえ」)「④テストなど問題に出るから」「⑤字が読めるようになるから」「⑥字の成り立ちがわかるから」「⑦字が覚えやすくなるから」「⑧その他」を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、漢字文化圏・非漢字文化圏それぞれを学習歴2年未満と2年以上に分けて示すと、【図②1-1】【図②1-2】【図②1-3】【図②1-4】のようになる。

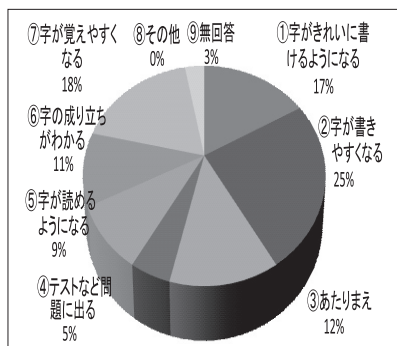
日本語教育における筆順指導の現状と課題



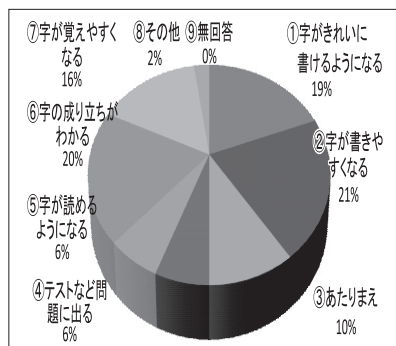
【図② 1 - 1】漢字〈2年未満〉



【図② 1 - 2】漢字〈2年以上〉



【図② 1 - 3】非漢字〈2年未満〉



【図② 1 - 4】非漢字〈2年以上〉

【図② 1 - 1】【図② 1 - 2】より、漢字文化圏についてみると、大半の選択肢が、漢字〈2年未満〉と漢字〈2年以上〉とでほぼ同じ比率になっている。しかし、「①字がきれいに書けるようになるから」については、漢字〈2年以上〉より漢字〈2年未満〉の比率が8%高く、「③筆順を習うのはあたりまえだから」については、漢字〈2年未満〉より漢字〈2年以上〉の比率が5%高い。これらの結果から、漢字文化圏の学習者は、日本語学習の初期段階では、筆順を習うことで「字がきれいに書けるようになる」と意識しており、ある一定の期間の学習を経てからは、筆順を習うことは「あたりまえ」のこととして

意識するようになることがわかる。学習歴によって、意識が変化していくということである。

【図②1-3】【図②1-4】より、非漢字文化圏についてみると、各選択肢の比率は漢字文化圏と違うところがあるものの、大半の選択肢は、非漢字〈2年未満〉と非漢字〈2年以上〉とでほぼ同じ比率になっている。差がみられるのは、「⑥字の成り立ちがわかるようになるから」で、非漢字〈2年未満〉が11%、非漢字〈2年以上〉が20%と、非漢字〈2年以上〉の方が9%高い。3.1で述べたように、非漢字文化圏の学習者にとって、漢字学習は大きな負担であるため、日本語学習の初期段階では、読み書きなどを習得することを重視しているが、ある一定の期間の学習を経て読み書きができるようになってからは、読み書き以外の部分（漢字の成り立ち）の習得にまで意識が及ぶようになったと考えられる<sup>6)</sup>。

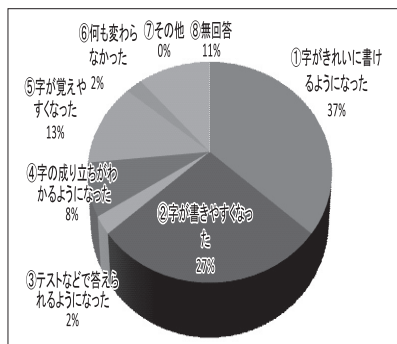
### 3.2.2 筆順指導を受けての変化について

3.2の質問で、筆順を「①今も習っている」「②今は習っていないが習ったことがある」と回答した日本語学習者に、筆順指導を受けてどのような変化があったかについて、7つの選択肢「①字がきれいに書けるようになった」「②字が書きやすくなった」「③テストなどで答えられるようになった」「④字の成り立ちがわかるようになった」「⑤字が読めるようになった」「⑥何も変わらなかった」「⑦その他」を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、漢字文化圏・非漢字文化圏それぞれを学習歴2年未満と2年以上に分けて示すと、【図②2-1】【図②2-2】【図②2-3】【図②2-4】のようになる。

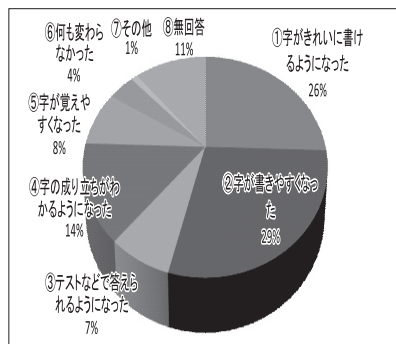
【図②2-1】【図②2-2】より、漢字文化圏についてみると、「①字がきれいに書けるようになった」の比率が、漢字〈2年以上〉より漢字〈2年未満〉の方が9%高い。3.2.1の「筆順指導を受ける理由」でも、漢字〈2年未満〉は、「①字がきれいに書けるようになるから」の比率が高く、上記の結果と合致している。学習歴の短い学習者は、筆順指導は「字をきれいに書く」ためにあると意識していることがわかる。



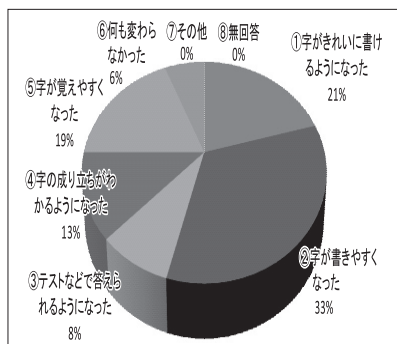
日本語教育における筆順指導の現状と課題



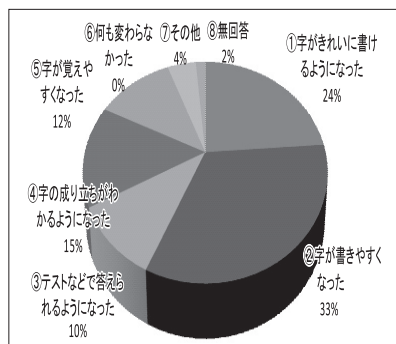
【図②-2-1】漢字〈2年未満〉



【図②-2-2】漢字〈2年以上〉



【図②-2-3】非漢字〈2年未満〉



【図②-2-4】非漢字〈2年以上〉

さらに、漢字〈2年以上〉の学習者に注目すると、「④字の成り立ちがわかるようになった」の比率が、漢字〈2年未満〉より6%高い。「字の成り立ちがわかるようになる」の比率が学習歴の長い学習者に高いという傾向は、3.2.1の「筆順指導を受ける理由」では、非漢字文化圏の学習者にみられた傾向で、漢字文化圏の学習者では、学習歴による差はそれほど大きくなかった。「漢字文化圏」「非漢字文化圏」という違いはあるものの、「筆順指導を受けての変化」において「字の成り立ちがわかるようになる」の比率が学習歴の長い学習者に高いのは、3.2.1でも述べたように、日本語学習の初期段階では、

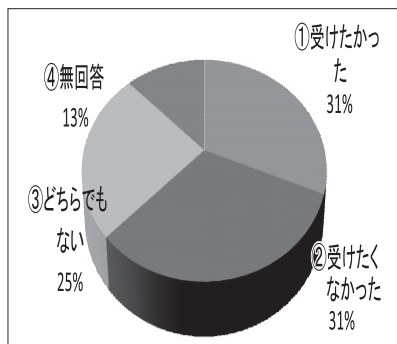
読み書きなどの習得を重視しているが、ある一定の期間の学習を経て読み書きができるようになってからは、読み書き以外の部分（漢字の成り立ち）まで意識が及ぶようになったためと考えられる。

【図②2-3】【図②2-4】より、非漢字文化圏についてみると、大半の選択肢は、非漢字〈2年未満〉と非漢字〈2年以上〉とではほぼ同じ比率になっている。しかし、「⑤字が読めるようになった」の比率が、非漢字〈2年以上、よりも、非漢字〈2年未満〉が9%高い。この結果からも、日本語学習の初期段階では、読み（書き）などの習得を重視していることがわかる。

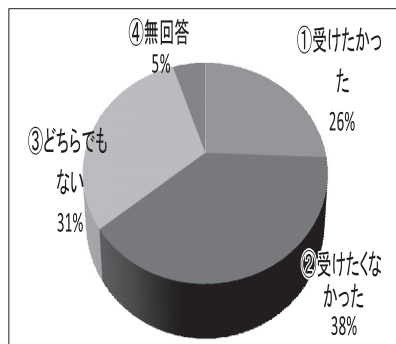
3.2.1の「筆順指導を受ける理由」では、「字の成り立ちがわかるようになる」の比率が学習歴の長い学習者に高い傾向にあることを述べたが、「筆順指導を受けての変化」では、非漢字〈2年未満〉と非漢字〈2年以上〉の比率はほぼ同じである。ここから、非漢字〈2年以上〉は、ある一定の期間の学習を経てある程度読み書きができるようになり、意識としては読み書き以外の部分まで及ぶようになってきているが、現実的には読み書きにまだ不十分なところがあり、読み書き以外の部分にまで学習が及んでいない状況にあると考えられる。理想と現実のギャップが現れた結果と言えよう。

### 3.2.3 筆順指導を受けてこなかった日本語学習者について

3.2の質問で「③今まで筆順を習ったことがない」と回答した日本語学習者に、筆順指導を受けたかったかどうかについて、3つの選択肢「①受けたかった」「②受けたくなかった」「③どちらでもない」を設け、尋ねた。ただし、3.2で「③今まで筆順指導を受けてこなかった」と回答した日本語学習者の大半が漢字文化圏の学習者で、非漢字文化圏の学習者は2人しかいないため、ここでは、漢字文化圏（55人）の結果のみ取り上げることとする。漢字文化圏を学習歴2年未満と2年以上に分けて示すと、【図②3-1】【図②3-2】のようになる。



【図②3-1】漢字〈2年未満〉



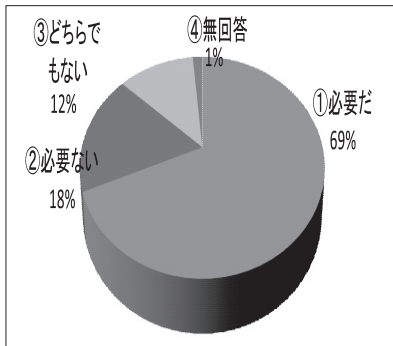
【図②3-2】漢字〈2年以上〉

【図②3-1】【図②3-2】より、漢字文化圏についてみると、漢字〈2年未満〉と漢字〈2年以上〉とでほぼ同じ比率になっている。しかし、詳しくみると、漢字〈2年以上〉より漢字〈2年未満〉が、「①受けたかった」の比率が高く、「②受けたくなかった」の比率が低い。ここから、漢字〈2年未満〉は、漢字〈2年以上〉よりも筆順指導を求めていることがわかる。ただし、全体に占める比率は決して高いとは言えないものの、日本語を学習する以前から漢字に親しんでいる漢字文化圏において、学習歴の短い学習者が筆順指導を求める傾向がある理由については現時点では不明である<sup>7)</sup>。

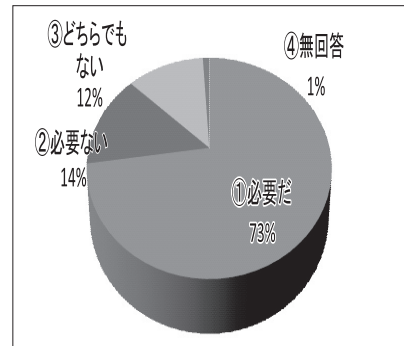
### 3.3 筆順指導の必要性について

筆順指導の必要性について、3つの選択肢「①必要だ」「②必要ない」「③どちらでもない」を設け、尋ねた。その結果を、漢字文化圏・非漢字文化圏それぞれを学習歴2年未満と2年以上に分けて示すと、【図③1】【図③2】【図③3】【図③4】のようになる。

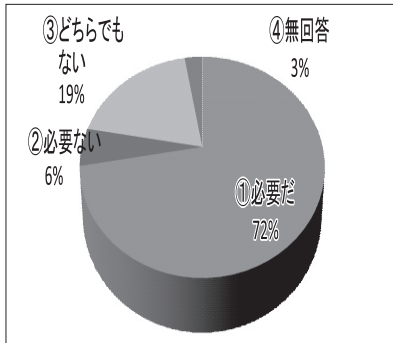
【図③1】【図③2】より、漢字文化圏についてみると、漢字〈2年未満〉と漢字〈2年以上〉がほぼ同じ比率になっている。しかし、詳しくみると、漢字〈2年未満〉より漢字〈2年以上〉が、「①必要だ」の比率が高く、また「②必要ない」の比率が低い。ここから、漢字〈2年以上〉は、漢字〈2年未満〉よ



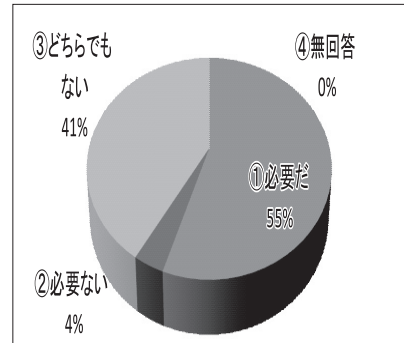
【図③1】漢字 <2年未満>



【図③2】漢字 <2年以上>



【図③3】非漢字 <2年未満>



【図③4】非漢字 <2年以上>

りも筆順指導を必要としていることがわかる。ただし、漢字 <2年未満>でも7割近くが「①必要だ」と回答しており、その差はわずかである。日本語学習の初期段階では、筆順指導の重要性は意識しているものの、読み書きの習得を重視するために、筆順の習得まで手が回らない状況にあるということである。筆順の習得は、ある一定の期間の学習を経て、ある程度読み書きができるようになってからということであろう。

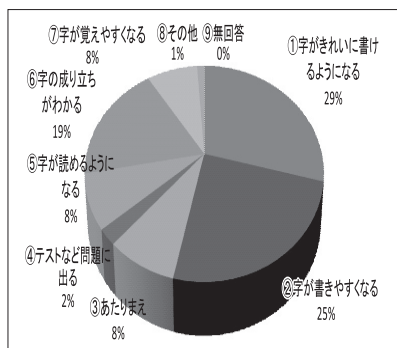
【図③3】【図③4】より、非漢字文化圏についてみると、非漢字 <2年未満>は、「①必要だ」の比率が非漢字 <2年以上>より17%高く、漢字文化圏

の結果と逆の結果になっている。3.2の「筆順指導の有無」で述べたように、漢字文化圏の学習者は、日本語を学習する以前から漢字（筆順）を知っているのに対して、非漢字文化圏の学習者は、漢字という文字に初めて触れるために、どのような順番でどのように書けばよいかわからないので、筆順指導が必要となるということであろう。

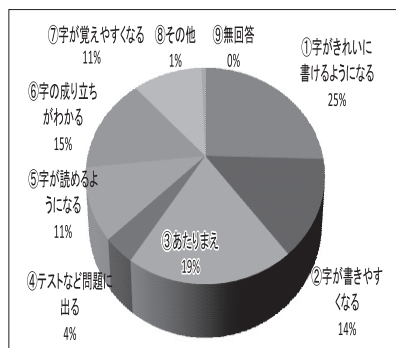
### 3.3.1 筆順指導が必要である理由について

3.3の質問で筆順指導が「①必要だ」と回答した日本語学習者に、筆順指導が必要な理由について、8つの選択肢「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」「③筆順を習うのはあたりまえだから」（図では「あたりまえ」）「④テストなど問題に出るから」「⑤字が読めるようになるから」「⑥字の成り立ちがわかるから」「⑦字が覚えやすくなるから」「⑧その他」を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、漢字文化圏・非漢字文化圏それぞれを学習歴2年未満と2年以上に分けて示すと、【図③1-1】【図③1-2】【図③1-3】【図③1-4】のようになる。

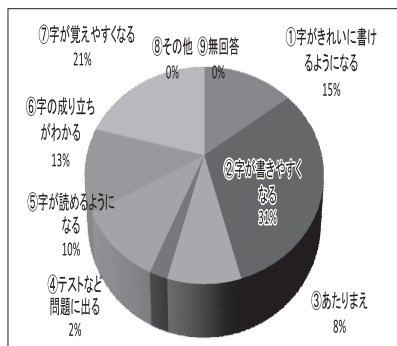
【図③1-1】【図③1-2】より、漢字文化圏についてみると、漢字〈2年未満〉は、「②字が書きやすくなるから」の比率が漢字〈2年以上〉より11%高い。3.2.1の「筆順指導を受ける理由」、3.3.2の「筆順指導を受けて



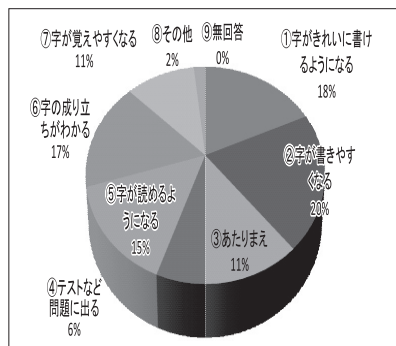
【図③1-1】漢字〈2年未満〉



【図③1-2】漢字〈2年以上〉



【図③1-3】非漢字〈2年未満〉



【図③1-4】非漢字〈2年以上〉

の変化」でも、「②字が書きやすくなる」の比率が、学習歴の短い学習者に高く、学習歴の短い学習者は、筆順指導は「字をきれいに書く」ためにあると意識していることがわかる。一方、漢字〈2年以上〉は、「③筆順を習うのはあたりまえだから」の比率が漢字〈2年未満〉より11%高い。3.2.1の「筆順指導を受ける理由」でも、「③筆順を習うのはあたりまえだから」の比率が学習歴の長い学習者に高い傾向にあった。これらの結果から、漢字文化圏の学習者は、日本語学習の初期段階では、筆順を習うことで「字がきれいに書けるようになる」と意識しているが、ある一定の期間の学習を経てから筆順を習うことは「あたりまえ」のことと意識していることがわかる。

【図③1-3】【図③1-4】より、非漢字文化圏についてみると、非漢字〈2年未満〉は、「②字が書きやすくなるから」の比率が非漢字〈2年以上〉より11%高く、非漢字〈2年以上〉は、「⑤字が読めるようになるから」の比率が非漢字〈2年未満〉より5%高い。これらの結果から、漢字という文字に初めて触れる非漢字文化圏の学習者が、読み書きの習得を重視していることがわかる。3.2.1の「筆順指導を受ける理由」において、非漢字文化圏では学習歴の長い学習者の方が高い比率を示していた「⑥字の成り立ちがわかるから」は、ここでも非漢字〈2年以上〉の方が高く、同様の傾向を示している。この結果からも、3.2.1で述べたように、非漢字文化圏の学習者は漢字に初めて

触れるために、日本語学習の初期段階だけでなく、ある一定の期間の学習を経てからも読み書きの習得を重視するが、ある程度読み書きができるようになってからは、読み書き以外の部分の習得にまで意識が及ぶ傾向にあることがわかる。

### 3.3.2 筆順指導が不必要である理由について

3.3の質問で筆順指導が「②必要ない」と回答した日本語学習者に、筆順指導が必要でない理由について、8つの選択肢「①筆順を知らなくても字がきれいに書けるから」「②筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから」「③筆順を知らなくても字が読めればそれでよいから」「④書きやすい筆順で書いた方がよいから」「⑤筆順を覚えるのがたいへんだから」「⑥筆順は自然に身につくものだから」「⑦テストなどに出ることはないから」「⑧その他」を設け、複数回答可で尋ねた。ただし、秋山英治（2012）で述べたように、3.2で「②必要ない」と回答した日本語学習者は、全体で29人と少ない。特に、非漢字文化圏は、3人しかいないため、この質問の結果については、漢字文化圏（26人）についてのみ学習歴2年未満と2年以上に分け、実人数を【表1】として示す<sup>8)</sup>。

【表1】

選 択 肢	2年未満	2年以上
①筆順を知らなくても字がきれいに書けるから	1人	7人
②筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから	5人	5人
③筆順を知らなくても字が読めればそれでよいから	2人	4人
④書きやすい筆順で書いた方がよいから	4人	5人
⑤筆順を覚えるのはたいへんだから	3人	1人
⑥筆順は自然に身につくものだから	2人	5人
⑦テストなどに出ることはないから	0人	4人
⑧その他	0人	3人
⑨無回答	1人	1人

【表1】より、漢字〈2年未満〉では、「⑤筆順を覚えるのがたいへんだから」の人数が漢字〈2年以上〉より多い。3.3の「筆順指導の必要性」で述べたように、日本語学習の初期段階では、読み書きを習得することを重視しているために筆順の習得まで手が回らない状態にあることがわかる。一方、漢字〈2年以上〉では、「①筆順を知らなくても字がきれいに書けるから」「③書きやすい筆順で書いた方がよいから」「⑥筆順は自然に身につくものだから」「⑦テストなどに出ることはないから」の人数が漢字〈2年未満〉より多い。漢字〈2年未満〉と比べて、回答者数の多い選択肢数が多くあるのは、ある一定の期間の学習を経て、読み書きと比べて、筆順をそれほど重視しなくなった（それほど重要なものではないことがわかった）ためと考えられる。それが顕著に現れているのが「⑦テストなどに出ることはないから」で、漢字〈2年未満〉が0人であるのに対して、漢字〈2年以上〉は4人である。テストの問題として、「読み書き」の問題は出るが、「筆順」の問題は出ないということは、ある一定の期間の学習を経た学習者だからこそのことである。学習の初期段階ではわからない。学習の初期段階では、筆順を教えられるために習得に励むが、ある一定の期間を経て、テストなどの問題に出ないことを理解してからは、筆順の習得を重視しなくなるということであろう。

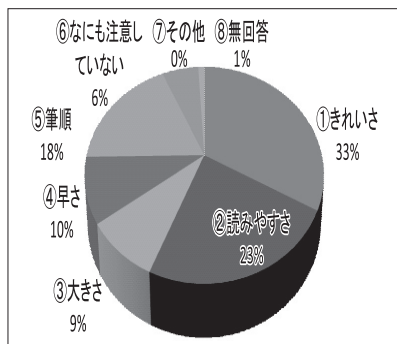
### 3.4 漢字を書くときの注意点について

漢字を書く時の注意点について、7つの選択肢「①きれいさ（美しさ）」「②読みやすさ」「③大きさ」「④はやさ（スピード）」「⑤書き順（筆順）」「⑥何も注意していない」「⑦その他」を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、漢字文化圏・非漢字文化圏それぞれを学習歴2年未満と2年以上に分けて示すと、【図④1】【図④2】【図④3】【図④4】のようになる。

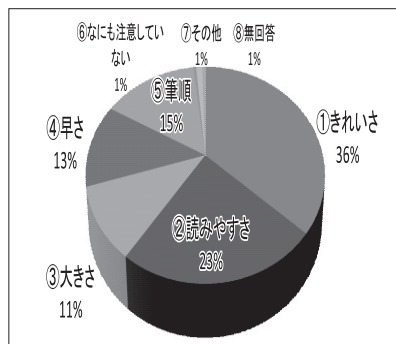
【図④1】【図④2】より、漢字文化圏についてみると、「⑥なにも注意していない」の比率が、漢字〈2年未満〉の方がやや高いものの、漢字〈2年未満〉と漢字〈2年以上〉とがほぼ同じ比率になっている。漢字文化圏では、漢字を書く時の注意点について、学習歴による差がほぼないことがわかる。



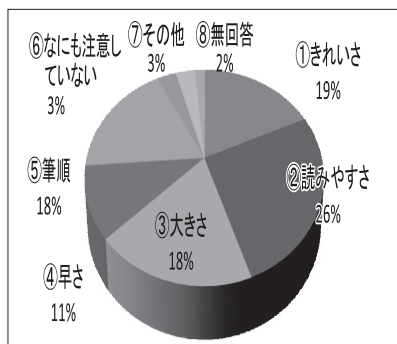
日本語教育における筆順指導の現状と課題



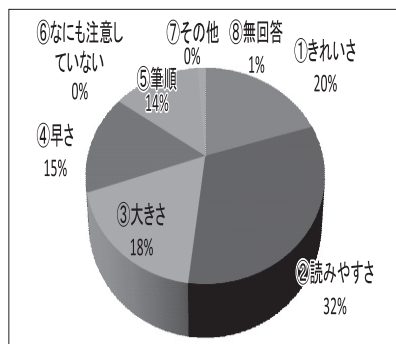
【図④1】漢字〈2年未満〉



【図④2】漢字〈2年以上〉



【図④3】非漢字〈2年未満〉

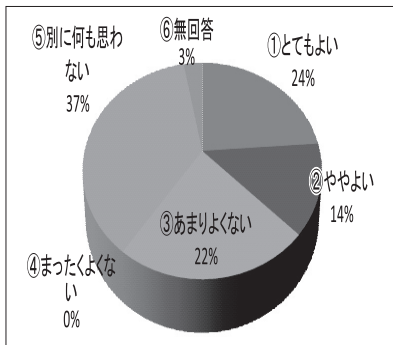


【図④4】非漢字〈2年以上〉

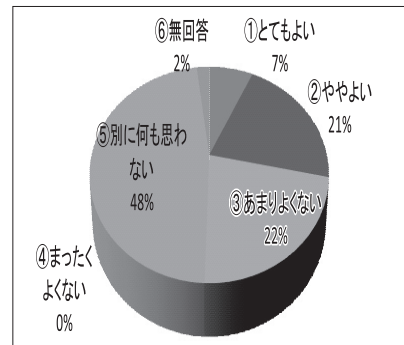
【図④3】【図④4】より、非漢字文化圏についてみると、非漢字〈2年未満〉と非漢字〈2年以上〉とがほぼ同じ比率になっている。しかし、詳しくみると、非漢字〈2年以上〉より非漢字〈2年未満〉が「⑤書き順（筆順）」の比率が4%高く、非漢字〈2年未満〉より非漢字〈2年以上〉が「②読みやすさ」の比率が6%高い。差としてはそれほど大きなものではないが、非漢字〈2年未満〉は「筆順」を、非漢字〈2年以上〉は「読みやすさ」を注意する傾向にあることがわかる。

### 3.5 他人の筆順について

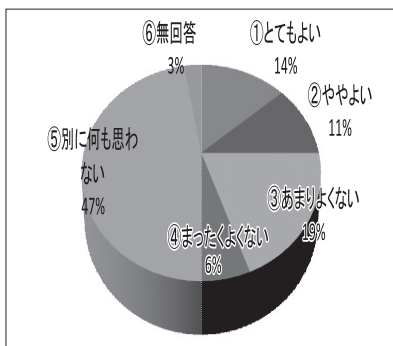
自分と違う筆順で字を書く人を見てどのような印象を持つかについて、5つの選択肢「①とてもよい印象を持つ」（図では「とてもよい」）「②ややよい印象を持つ」（図では「ややよい」）「③あまりよい印象を持たない」（図では「あまりよくない」）「④まったくよい印象を持たない」（図では「まったくよくない」）「⑤別に何も思わない（よい印象も悪い印象も持たない）」を設け、尋ねた。その結果を、漢字文化圏・非漢字文化圏それぞれを学習歴2年未満と2年以上に分けて示すと、【図⑤1】【図⑤2】【図⑤3】【図⑤4】のようになる。



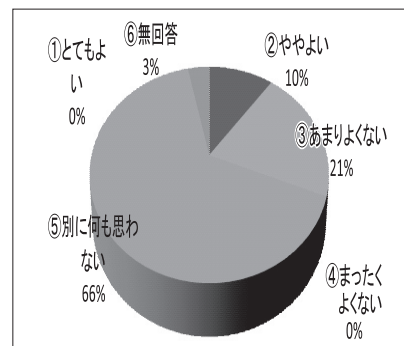
【図⑤1】漢字〈2年未満〉



【図⑤2】漢字〈2年以上〉



【図⑤3】非漢字〈2年未満〉



【図⑤4】非漢字〈2年以上〉

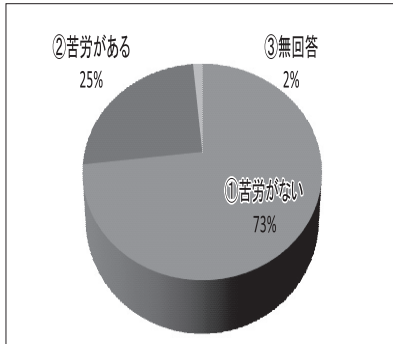
【図⑤1】【図⑤2】より、漢字文化圏についてみると、「①とてもよい印象を持つ」「②ややよい印象を持つ」の肯定的な回答の比率が、漢字〈2年未満〉が38%、漢字〈2年以上〉が28%と、漢字〈2年未満〉の方が10%高い。漢字〈2年未満〉・漢字〈2年以上〉ともに、「③あまりよい印象を持たない」が22%、「④まったくよい印象を持たない」が0%（回答なし）と否定的な回答の比率が同じであることと合わせて考えると、漢字〈2年未満〉の方が、他人の筆順について肯定的な意識を有していることがわかる。日本語学習の初期段階では、読み書きを重視している（筆順まで手が回らない）ことから、たとえ他人の筆順が自分の筆順と違っていても（漢字学習の大変さを自分自身実感しているために）肯定的に捉えるということであろう。

また、漢字〈2年以上〉は、「⑤別に何とも思わない（よい印象も悪い印象も持たない）」の比率が、漢字〈2年未満〉より11%高い。上述してきたように、学習期間の長い学習者は、ある一定の期間の学習を経て、ある程度読み書きができるようになり、読み書き以外の筆順にまで意識が及ぶようになる傾向にあるが、たとえ他人の筆順が自分の筆順と違っていても、決して厳しい見方をするのではなく、特に問題にしない傾向にあることがわかる。

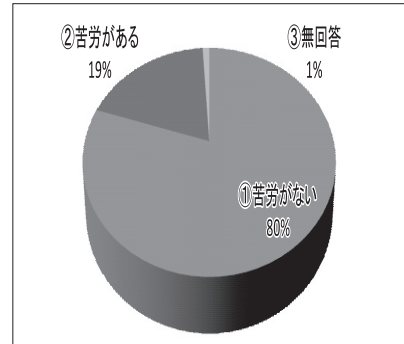
【図⑤3】【図⑤4】より、非漢字文化圏についてみると、比率としては違いがあるものの、漢字文化圏と同様の傾向を示し、「①とてもよい印象を持つ」「②ややよい印象を持つ」の肯定的な回答の比率が、非漢字〈2年以上〉より非漢字〈2年未満〉が高く、「⑤別に何とも思わない（よい印象も悪い印象も持たない）」の比率が、非漢字〈2年未満〉より非漢字〈2年以上〉が高い。自分の筆順と違う人を見て、学習歴の短い学習者は肯定的な意識を持ち、学習歴の長い学習者は、特に問題にしない傾向にあることがわかる。

### 3.6 漢字学習上での苦勞について

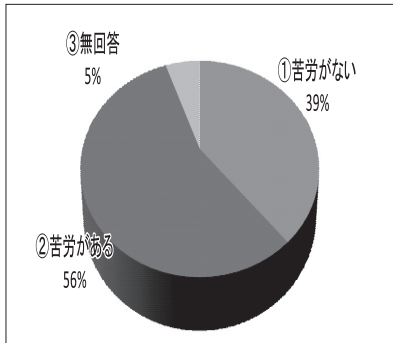
漢字学習上での苦勞の有無について、2つの選択肢「①苦勞がない」「②苦勞がある」を設け、尋ねた。その結果を、漢字文化圏・非漢字文化圏それぞれを学習歴2年未満と2年以上に分けて示すと、【図⑥1】【図⑥2】【図⑥3】



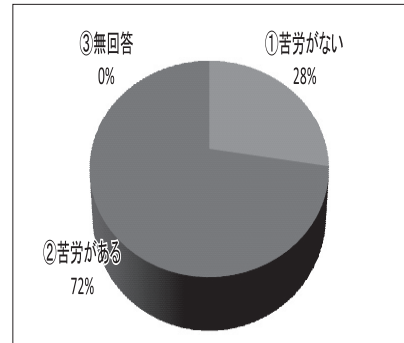
【図⑥1】漢字〈2年未満〉



【図⑥2】漢字〈2年以上〉



【図⑥3】非漢字〈2年未満〉



【図⑥4】非漢字〈2年以上〉

【図⑥4】のようになる。

【図⑥1】【図⑥2】より、漢字文化圏についてみると、「②苦勞がある」の比率は、漢字〈2年未満〉が25%、漢字〈2年以上〉が19%と、漢字〈2年以上〉より漢字〈2年未満〉が6%高い。日本語を学習する以前から漢字（筆順）を知っている漢字文化圏の学習者であっても、学習の初期段階で苦勞していることがわかる。「①苦勞がない」と回答した学習者について、具体的な問題点を自由記述で尋ねているが、それらの記述をみると、漢字文化圏の学習者では、「日本語と母語（主に中国語）とで違う字があるので間違えやすい」と

という回答が多い。日本語を学習する以前から漢字を知っているがゆえに生じる問題に苦勞していることがわかる。

【図⑥3】【図⑥4】より、非漢字文化圏についてみると、「②苦勞がある」の比率が、非漢字〈2年未満〉が56%、非漢字〈2年以上〉が72%と、漢字文化圏とは逆に、非漢字〈2年未満〉より非漢字〈2年以上〉が16%高い。「②苦勞がある」と回答した学習者の具体的な問題点をみると、「覚える字が多くてなかなか覚えられない」「漢字の覚え方がわからない」「音読みと訓読みがあつて覚えるのがたいへん」という回答が多くみられ、文化圏によって問題となる部分に違いがある。とくに、学習歴の長い学習者では、「覚える字が多くてなかなか覚えられない」「音読みと訓読みがあつて覚えるのがたいへん」という回答が多い。学習歴の長い学習者は、ある一定の期間の学習を経て、ある程度読み書きができるようになってはいるが、学習すればするほど漢字学習の大変さ（漢字の持つ多様性<sup>9)</sup>）に気付き、苦勞を感じていると考えられる。

#### 4. お わ り に

以上、日本語教育における筆順指導の実態と日本語学習者の筆順指導に対する意識について、「漢字文化圏」「非漢字文化圏」という文化圏を、さらに「学習歴」という観点を加えて分析を行った。日本語を学習する以前から漢字を知っている漢字文化圏と、初めて漢字という文字に触れる非漢字文化圏とで、それぞれ事情が異なるものの、漢字学習の好き嫌いや筆順指導の有無、筆順指導を受ける理由など、学習歴によって意識に違いがみられることが明らかになった。また、日本語学習の初期段階では読み書きを重視し、ある一定の期間の学習を経てから筆順まで意識が及ぶようになるなど、学習歴にともなう意識の変化がみられることなども明らかになった。

パソコンや携帯電話など電子機器の発達によって、手書きの文字が減少し、誰もが容易に漢字変換ができる時代にあつて、多様化する日本語学習者に、いかに漢字を教えていくべきか、漢字指導の在り方について、今一度見つけ直す

時がきている。本研究成果が、漢字指導、特に筆順指導の在り方を見直すための一助となれば幸いである。

## 注

- 1) ここで言う「増加率」とは、前回調査の2006年度の数値を100%とした場合の増加率のことである。
- 2) 国際交流基金(2011)によれば、1機関あたりの日本語教師数は2006年の3.25人から2009年の3.34人とわずかに増加しているものの、日本語教師1人あたりが教える日本語学習者数は、2006年の67.2人から2009年の73.3人と、6.1人増加しており、日本語教師の負担が増加していることがわかる。
- 3) 秋山英治(2012)と同様に、中国(香港を含む)・台湾・モンゴル・韓国・ベトナムを「漢字文化圏」、それ以外の国・地域を「非漢字文化圏」とした。  
ただし、「漢字文化圏」と言っても、それぞれ事情が異なる。韓国では、現在ハングルが一般的であり、特に若い世代では漢字を理解・使用できる人は非常に少ない。ベトナムでも、クオック・ゲーというアルファベット表記が一般的であり、漢字を理解し使用できるのは一部の人に限定されている。一方、中国は、漢字中心である。このように国や地域によって漢字の使用状況に差があるが、漢字の影響を大きく受けている(受けてきた)ということで、韓国やベトナムも「漢字文化圏」に含めることとした。なお、どの国・地域を含めるかについては、社団法人日本語教育学会(2005)『新版日本語教育事典』も参考にした。
- 4) 方穎琳(2009・2010)によれば、中国出身の日本語学習者では、学習歴2年未満と2年以上との間に、コミュニケーション・ストラテジーの使用頻度に有意差がみられることが指摘されている。
- 5) 文化圏別の特徴については、秋山英治(2012)で述べたため、本稿では、その部分については改めて述べることをせず、各文化圏における学習歴別の特徴について述べることにする。なお、出身・使用言語・性別の特徴については、秋山英治(2012)を参照されたい。
- 6) 秋山英治(2012)では、「①字がきれいに書けるようになるから」の比率が、漢字文化圏より非漢字文化圏の方が10%低いことから、非漢字文化圏の学習者は「きれいに書く」ことよりも、「書けるようになる」ことを重視していることを指摘した。
- 7) たとえば、「右」「左」の第1・2画目の筆順は、日本では違うが中国では同じである。

## 日本語教育における筆順指導の現状と課題

このように自国で学習してきた筆順と日本での筆順の違いによる影響も考えられる。詳細については、今後の研究に俟ちたい。

- 8) 漢字〈2年未満〉と漢字〈2年以上〉の回答者数は均等ではないため、単純に比較することはできないが、傾向を把握することができると考え、分析を行った。
- 9) 「1. はじめに」で述べたように、一口に「漢字」と言っても、字形・字体・画数・部首・読み・筆順・成り立ちなどさまざまな面がある。学習歴の長い学習者は、いくら学習してもさらに学習しなければならない部分が出てくる（なかなか終わらない）ことに、苦勞を感じていると考えられる。

## 引用文献

- 秋山英治（2012）「国語教育・日本語教育における筆順指導の実態及び意識に関する研究」『漢字・日本語教育研究』（平成23年度漢字・日本語教育研究助成研究成果報告書）第1号
- 国際交流基金（2011）『海外の日本語教育の現状 日本語教育機関調査・2009年概要』
- 社団法人日本語教育学会（2005）『新版日本語教育事典』大修館書店
- 津村幸恵・外田久美・宮澤正明・杉浦妙子・河合仁・塚本宏（1999）「中学校国語科免許必修の『書道（書写を中心に）』における効果的な学習指導方法の研究と実践—筆順指導の在り方を通して—」『書写書道教育研究』第13号
- 方穎琳（2009）「中国国内での接触場面における日本語学習者のコミュニケーション・ストラテジー—学習歴の違いに着目して—」『言語文化と日本語教育』38号
- 方穎琳（2010）「接触場面における中国人日本語学習者のコミュニケーション・ストラテジーの使用—意味伝達問題を解決するための達成ストラテジーを中心に—」『言語文化と日本語教育』39号

## 付 記

本稿は、財団法人日本漢字能力検定協会平成23年度漢字・日本語教育研究助成による成果の一部である。調査に協力してくださった諸機関及び日本語学習者の方々に感謝申し上げます。